

R. M. (情報メディア学科・2年次生)

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

高校生の頃に初めて海外に行った時に、外国人と話すことの楽しさを感じました。また、海外メディアや小物のデザインなどにもとても興味を持ちました。そのため、大学に入ったら留学して、それらを実際に見て学んだり、もっと海外の人と話したいと思いました。

② 留学決定から出発までの準備期間

私は大学生になってから IELTS の勉強をしていました。その他は、洋楽を聴いたり、YouTube で外国人が話す動画などを見ていました。

③ 現地到着後

セメスター語学留学と一緒にいくメンバーと同じ飛行機に乗ったので安心でした。空港では、ホストマザーと彼女の妹さんが迎えに来てくれて、車でステイ先まで行きました。

④ 語学研修機関

IEP は 100 クラスから 700 クラスの 7 クラスに分かれていて、留学前にパソコンで受けるプレイスメントテストで最初のクラスが決まります。500 クラスまでは主に Grammar、Reading、Vocabulary、あと少しだけ Speaking を勉強し、600 クラスからは Essay の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなどの練習をしました。クラスメイトは日本人、中国人、韓国人、サウジアラビア人、ブラジル人、コロンビア人などがいました。週に 2 日だけ午後まで授業があり、毎週末に IEP アクティビティがあります。1 学期の長さは 2 か月で、月末にパソコンで受ける中間テストと期末テストがあります。授業内での成績やテストの点数で上のクラスに上がるかどうかが決まります。パソコンのテストは、最初は英語ばかりで操作方法が分からなかったり、キーボードの並びが日本と違うため戸惑ったりしました。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

私は、アニメクラブと少しだけ Learning Exchange に参加していました。Learning Exchange とは、日本人とカナダ人が日本語と英語で会話する会のことです。アニメクラブでは、月に 1 回、メンバーで集まってご飯を食べながら大スクリーンでアニメを見ました。Learning Exchange は、始まる時間が遅かったためあまり参加できませんでした。カナダ人やアジア人と日本語と英語で色々な話をするのができて楽しかったです。

⑥ 現地での住まいについて

初めのホームステイ先は、学校から約1時間かかるところにありました。朝食は自分でシリアルを準備して食べ、昼食は前日にサンドイッチを作って持って行きました。夕食は時々用意してもらっていましたが、夕食の時間にホストマザーがほとんどいなかったのと、用意されていたものがほとんど冷凍食品を温めたもので、野菜や栄養のあるものを食べられなかったため、自分でご飯を炊いたり、野菜を買っておかずを作っていました。シャワーは2日に1回と制限されていました。変更後のホームステイ先は、大学から40分ほどのところにあり、朝はシリアルを食べ、晩御飯はちゃんと用意してもらい、お昼は前日の晩御飯の残りなどをタッパに入れてもらっていました。ステイ先変更後は、料理は休日の朝に卵を焼くことくらいしかしませんでした。

⑦ 長期休暇の過ごし方

長期休暇は、友達とバンフとバンクーバーに行きました。バンフ国立公園は、辺り一面雪景色ですごく寒かったですが、色々なところを周れて楽しかったです。バンクーバーは、チャイナタウンに日本食を買いに行ったり、水族館に行ったりしました。年越しのカウントダウンをバンクーバーで迎えることができたことが感動的で、とても良い思い出になりました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も印象に残っていること

ウィニペグは、中国人が沢山いる街だと感じました。マニトバ大学周辺は、中国系の店や看板などを多く見かけました。クラスメイトの半分以上は中国人でしたが、そのぶん中国人の友達もたくさんできましたし、中国のものや食べ物をたくさんもらったり、何度か中国料理店と一緒に食べに行ったりもしました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

色々ありましたが、特に一番大変だったのはホームステイでした。私は12月の中旬に、ホームステイ先を変更しました。初めに滞在したステイ先のホストファミリーは、ホストマザーだけで、彼女は1週間のうちの3分の2は仕事か友達との夜遊びでいませんでした。あまり料理をしない人で、冷凍食品が晩御飯として出る日が多く、自分で食材を買って作っていました。また、ひとつひとつの態度が大きく、少し怖いと思う時もありました。リビングでパソコンをしていると「リビングで一緒にいるのにパソコンするのは失礼だ」と怒られたので、部屋でパソコンをしていると「なんで部屋にこもってるの？出てきて」と言われることが多く、自分の時間が取れず、そのことで言い合いになる日も多くありました。何度か現地のホームステイマネージャーに相談していましたが、「ステイ先を変える理由にならない。ホストマザーの何がいけないの？」と言われ続けました。ホストマザーは、ホストファミリーとして学生を受け入れるのは私が初めてでした。ホストマザーが、ホームステイに関する何を何度もホームステイマネージャーに相談しているうちに、2人が仲良くなったため、

ホームステイマネージャーはいつもホストマザーの肩を持っているように思いました。私は、生活観の違いや、性格が合わなかったのが原因かもしれないと思い、週末など、ホストマザーと一緒に過ごせる時間に話をするように心がけ、仲良くなろうとしていました。しかし、あまり改善されなかったため、このままステイ先の変更をしてもらえないのであれば家出しようと思い、学校の近くのモーテルを調べたり、友達の家でホームステイ先に泊まらせてもらえないかを相談したりもしていました。最後に、同女の国際課にこのことを相談し、留学エージェントのワイルドローバーを通して、ホームステイマネージャーにステイ先の変更をお願いしてもらい、12月の中旬にホームステイ先を変えることができました。変更する日は、私のホストマザー、ホームステイマネージャー、私の3人で、何が原因でこのような事態になったのかを話し合ってから引っ越しましたが、私の英語不足もあり、私が悪いような話の方向になってしまい、とても辛かったです。

変更後は、とてもいい家庭にステイさせてもらうことができました。当時の私は、新しいホストファミリーも前回のホストマザーのような人ではないかと思い、少し怖がっていたのですが、私が引っ越してきた日にホストファミリーが、「あなたの帰りが遅い時、あなたの家族が心配するように私たちも心配しているから、連絡してきてね」と言われ、感動しました。新しいホストファミリーとは、テレビでホッケーの試合を一緒に見たり、クリスマスに家族で集まってプレゼントをもらったり、ご飯を食べたり、ホストファミリーの孫とゲームをしたりしました。当時の私にとっては、毎日ホストファミリーと同じ時間に、ホストマザーが作ったご飯をテーブルに座って一緒に食べることが何よりも幸せなことでした。また、風邪を引いたときに薬を用意してくれたり、私が腕を怪我した際に病院を予約してくれたり、冬休みに友達と旅行に行った際に早朝の飛行機に間に合うようにタクシーを呼んでくれたり、とても親切にしてくださり、今でも感謝しています。

③ 文化、習慣などの違いで驚いたこと

38度の熱を出した時、日本ではインフルエンザなどを疑って病院へ行きますが、カナダ人は滅多に風邪や高熱で病院に行くことはないそうです。テストがあった日に38度の熱が出てしまい、学校に行くことができず病院に行ったことがありましたが、風邪の症状はなかったため、医者から「仮病で学校休みたかったの？」と聞かれてびっくりしました（カナダでは、学校を休んで病院で診察してもらおうと、その日の学校の出席や課題などを免除してもらえるフォームをもらうことができるシステムがあります。何人かの学生が、テストの日には仮病などを使って病院でフォームをもらってテストを休んだりするそうです）。その後は、38度の熱が続いた時は、ホストファミリーが買って来てくれた市販のインフルエンザの薬を飲んで治しました。また、学校では、他国の人たちでテスト中すぐにバレるようなカンニングの仕方をしたり、学校から貸し出されている教科書に書き込みをしたり、用事を思い出して突然授業を抜け出して帰宅したりする人がいて驚きました。

Ⅲ. 留学志望者へのアドバイス

① 日本から持って行って特に役立つもの

パソコンは持って行くべきだと思います。持っていればいつでも月報を書くことができます。また、ウィニペグは冬になるとマイナス30度近くの気温になりますが、カイロはそんなにいらなと思います。暖かい上着とブーツを持っていれば、室内はとても暖かいですし、過ごしやすいと思います。ブーツは現地で買うのが良いと思います。また、体温計や常備薬は必要だと思います。マニトバ大学には保健室のようなところはなく、病院で熱を測るだけでも診察したと見なされるようです。風邪を引いた時などに、使い慣れた体温計で熱を測れるようにしておくのが便利です。カナダには、たくさん Wi-Fi が通っている場所があるため、ポケット Wi-Fi や SIM カードは持っていなくても大丈夫ですが、持っている道に迷ったり出先で連絡しなければならぬことが起きた場合に便利です。

② 語学力の向上、留学の成果、留学前と後で変わったこと

留学を通して色々な国の人と話したり、友達になったことにより、今まで全く知らなかった色々な国の文化や習慣に興味を持つようになりました。習慣や生活観が日本と違うことを学んだことにより、その元となるその国の経済や政治も気になったり、様々な分野へ視野が広がったと思います。また、日本に帰ってから大学の外国人の先生とお会いして話した時、自分が留学に行く前と比べて、英語をためらわずに自然な気持ちで話していることに気づきました。ただ、ライティング力に関しては、あまりライティングの練習を特化してする授業がなかったため、留学中は日記や手紙を書くなどして自分で練習するべきだと思います。

③ これから留学を考えている方にアドバイス

留学したいという気持ちに、必ず不安な気持ちがついてくるとは思いますが、実際向こうに行ってから自分の身に何が起こるかなんて誰にも分かりません。留学先で辛いことがあっても、自分で解決しようという気持ちが自然と湧いてくるとは思います。また、違う国の人でも、留学している人はみんな不安な気持ちを持っていると思うので、悩んでいることがあれば相談してみるのも大切だと思います。私は、ホームステイのことで悩んでいた時、クラスで同じようにホームステイを変えた子や、先生に相談することで少し気が楽になりました。また、語学学校ではいろんな国から来た人と出会いますが、心を広くして受け入れることは大事だと思います。私のクラスは、ほとんどが日本人以外の留学生でしたが、意思疎通がうまくいかず、朝教室に入りにくい日もありました。ですが、相手が話しかけて来た時などは、快く受け入れていたので、彼らも心を許してくれて、今でも連絡を取り合う良い友達もいます。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

今回のセメスター語学留学で、カナダの文化や人々だけでなく、同じクラスと一緒に勉強したカナダ以外の国の人と関わることにより、彼らの国の文化も興味を持ちました。今後、もっといろんな国のたくさんの人と話を話して、色々な国のことを知りたいと思うようになりました。また、初めのホストマザーを含め、もし同じ言語を話していたら、もう少しお互いを理解し合えた人がいるかもしれません。英語の勉強を続けて、もっと外国人の気持ちを理解できるようになりたいと思いました。将来なりたい職業などはまだ決まっていませんが、留学で学んだ語学や経験と、情報メディア学科で学んだことを活かした仕事をしたいと思っています。

V. 写真



冬のウィニペグの住宅街です。雪が降ると一晩で道がふさがりますが、朝になると住民が道を歩けるように協力して雪かきをします。



私がカナダに行った年は、カナダが建国されて150周年の年で、このような記念オブジェがウィニペグの公園にありました。このオブジェはバンクーバーでも設置されており、暗くなると虹色に光って綺麗でした。

M. T.（社会システム学科・1 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

高校生のときに 2 週間のオーストラリアへの語学研修に参加した際に、もっと長い期間留学をしたい、海外でもっと英語を勉強したいと思ったことがきっかけです。また、外国人の友達がほしいと思ったからです。

② 留学決定から出発までの準備期間

日用品で必要なものを早めに準備したり、カナダは現金ではなくカード社会なので、カードを準備したりしました。勉強面では、単語を 1 つでも多く覚えることを一番優先しました。その他には、字幕で洋画を見るなどの準備をしました。

③ 現地到着後

ウィニペグに到着した時は、ホストマザーが空港まで迎えに来てくれていて、名前のプレートを持って待っていてくれました。空港から家までは、車で 30 分から 40 分くらいと少し遠かったです。月曜日から学校が始まる予定だったため、土曜日にウィニペグに着きました。月曜日のオリエンテーションでは、クラスの発表や授業の説明を受け、大学内も案内してもらいました。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

マニトバ大学は敷地がとても広いので、場所を覚えるのが大変でしたが、カフェや薬局、コンビニなどもあったため、とても便利でした。また、ウィニペグならではの寒い冬に対応して、大学内には地下通路があるため、寒い冬に外を出ずに教室を移動することができます。図書館もとても広いので、テスト前にはそこで友達と勉強したりしました。

◆ 授業内容、課題、試験

授業は大体 Grammar、Reading、Conversation の 3 つで分かれています。Conversation の授業では、ペアになってお互いの国について紹介をするなど、楽しい授業が多かったです。試験は Grammar と Reading だけが行われ、毎月テストがあります。2 か月ごとのテストに合格すると上のクラスに上がることができます。テストはパソコンで行われたため、自分の間違った問題を知ることができなかったのが残念でした。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

私は毎週木曜日に、Language Exchange というプログラムに参加していました。これは日本人と日本語を話したい人、または日本が好きの人たちが集まってグループに分かれ、1 時間ずつ英語と日本語を話すプログラムです。また毎週末にはアクティビティがあり、ウィニペグの冬ならではの体験もたくさんできました。

⑥ 現地での住まいについて

5 か月間ホームステイをしました。私の家は、他の人たちに比べると大学から少し距離があり、バスの乗り継ぎが悪かったため、寒い冬には少し厳しかったです。ですが、家は暖かく保たれていました。ホストマザーと2人だったので、夜ご飯の時に準備を手伝ったりしていました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

私は冬休みを使ってニューヨークへ旅行に行きました。ずっと行ってみたかった憧れのニューヨークに行くことができ、とても良い思い出になりました。自由の女神やタイムズスクエアなどの観光地を回り、とても充実した時間を過ごすことができました。また、タイムズスクエアでのカウントダウンを体験することができ、とても寒かったですが貴重な体験をすることができました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も印象に残っていること

楽しかったことは、様々なアクティビティに参加したことです。アクティビティでは、ウィニペグならではのアナ雪の世界に入ったような氷で作られたお城に行ったり、凍った川の上でスケートをしたことです。とても貴重な体験ができたので、すごく思い出に残っています。また、Language Exchange で仲良くなった人たちとプログラムが終わった後に、毎週のようにご飯に行ったりしたことです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

最初の2か月ぐらいは、授業で先生が言ったことをすぐに理解できなかつたり、友達との会話でも、すぐに理解できず聞き返すことが多く、リスニング力が上がるまでとても苦労しました。また、ホストファミリーの家には猫が2匹いたのですが、今までペットを飼ったことがなかったため、部屋のドアをいつも閉めていました。しかし、毎日朝5時にドアを開けて部屋に入ってくるということがあり、それが少しストレスになってしまっていました。

③ 文化、習慣などの違いで驚いたこと

毎日お風呂に入らないことです。私のホストマザーは、3日に1回か、2日に1回のペースで入っていました。

III. 留学志望者へのアドバイス

① 日本から持って行って特に役立ったもの

ウィニペグの冬はとても寒いので、ヒートテックや厚手のタイツ、カイロはとても役に立ちました。パソコンは持って行くことをお勧めします。また、洗濯が1週間に一度しかないので、下着を多めに持って行くこともお勧めします。

② 語学力の向上、留学の成果、留学前と後で変わったこと

リスニング力は確実に上がっていると思います。また、留学に行ったことで、先生の質問などに対して自分の意見を人前で言うことに少し慣れることができたと思います。

③ これから留学を考えている方にアドバイス

留学中、嬉しいことも楽しいことも辛いこともたくさんありますが、とても良い経験になると思います。外国人の友達もたくさんできます！悔いの残らないようにたくさん学んでたくさん楽しんできてください！

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

私の目標は TOEIC の点数を上げることです。この留学で得たリスニング力を下げないように、勉強し続けていきたいと思っています。

V. 写真



この写真はアクティビティで、大学内にあるスケートリンクでスケートをした時のものです。



Language Exchange のメンバーで写真を撮った時のものです。

E. I. (社会システム学科・2年次生)

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

ある台湾人家族が私の親ととても仲が良く、小さい時から海外に触れる機会が多かったので海外を身近に感じていました。さらに科目の中で英語が得意な方だったこともあり、高校は英語科に進学しました。その時に留学をしていた同じクラスの子たちが、帰国後に英語のレベルが高くなっていたこと、その後海外の大学に進学していることもあり、それをきっかけにもっと英語が話せるようになりたいという思いから、このセメスター語学留学に応募しました。また、高校の修学旅行でオーストラリアに2週間行った際にとっても短く感じ、留学したらもっと学べることも多いんじゃないかと考えたことも、今回の留学への一歩となりました。

② 留学決定から出発までの準備期間

国際課が準備するもの・ことなど事細かに説明してくださったので、特に困るようなことはありませんでした。航空券等は私の場合、旅行会社を通じずネットで購入しました。価格を重視して中国経由の便にしましたが、他の同女のメンバーはみんな同じカナダ直行便を利用しており、1人ということに多少の不安はありつつも挑戦してみました。

学習に関しては、ネット等の失敗談を読んでいると自己紹介や日本についてのことが喋れない、といった悩みが多くあり、留学前の夏休み期間を使って英語学習以外に自分のこと、日本のこと、大学のこと等をできるだけ喋れるように練習しました。

③ 現地到着後

空港に着くとすぐにホストマザーが迎えに来てくれました。当日の服装や飛行機の時間についてきちんと連絡を取り合っていたので、会ったらすぐにわかりました。学校の始まる2日前に着いたので家のルールを確認したり、周辺の散策をしました。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

大学内は広大でしたが、使う施設は限られていたので慣れるのも時間の問題でした。ただ、冬の期間は移動のため地下のトンネルを使うのですが、トンネル内は暑いのに外はマイナスの世界で、気温差がとても激しく体温調節が大変でした。大学は郊外にあるので、周囲に遊ぶようなところは少ないですが、大学内はカフェやコンビニ、薬局、旅行代理店さらには美容室まであり、とても充実していました。ブックストアは品揃えが良く、マニトバ大学限定のパーカーや文具等それだけでお土産になるグッズもあり、かわいかったです。

◆ 授業内容、課題、試験

留学前に受けるプレイスメントテストによって決められたクラスで授業を受けます。英語の基本の3技能 (Writing, Reading, Speaking) に加え、Presentation や Idiom を学べるクラスもあります。Writing や Reading は日本でも一見受けられそうですが、Reading

は、ある本や文章についてディスカッションしたり、読み方のコツなどを教えていただきました。Writing でも Essay の書き方等向こうで初めて習うようなものもありました。基本的に自分の意見を話し合う時間が多く、留学初月に受けた Culture talk という授業では、異国の人とそれぞれの国の文化について紹介しあい、クラスメイトとの距離が一気に縮まりました。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

私は、マニトバ大学のクラブ活動と、日本語・英語の Language Exchange に参加して、なるべく英語を喋れる環境を作りました。クラブ活動は、自分が好きなのでアニメクラブに所属していました。クラブは、いろいろな人と共通の話をすることができ、話しやすいし友達もできるので、入ることをお勧めします。IEP の留学生用に、いろいろなアクティビティを現地の IEP リーダーの方が企画してくれるので、そこで楽しい体験を多数することもできました。また私は、市内で行われている英語を第二言語とした人々向けのグループやレッスンにいくつか参加していました。その中でも特に参加していたのは、朝のカフェで行われる英語レッスンです。先生はそこで長年指導してくださっている先生みたいで、とても親近感があり、レッスン中は常に笑いがありました。少数なので一人一人の発音を確認したり、みんなで順番にストーリーを作ったりするなど丁寧で楽しい、その場オリジナルの授業でした。

⑥ 現地での住まいについて

ウィニペグにはバスしか手段がなく、私のホストファミリーの家は大学から結構遠くて、バスで1時間という通学に不便な場所に住んでいました。ホストファミリーは、マザーとホストファザー（マザーの弟）、プードル1匹と一緒に住んでいました。カナダ人の家庭で、ご飯はピザやホットドッグといったアメリカンなメニューやメキシコ系のメニューが多いですが、ヘルシーなスープの日もあり、とてもおいしくて毎日のメニューが楽しみでした。純粋なカナダ人であることから、孫たちが遊びに来てても英語を話すスピードが速すぎて聞き取れないこともよくありました。ホームシックには一度もありませんでした。

⑦ 長期休暇の過ごし方

年末に2週間ほど休みがあったので、バンフとバンクーバーへ1週間ほど滞在しました。私は、ウィニペグへ大きめのスーツケースと、1週間旅行用の中くらいのスーツケースの合計2つを持って行っていたので、旅行には中くらいのスーツケースで行きました。留学中に旅行を考えている場合には、旅行用の荷物も考えて持っていくとよいかもしれません。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も印象に残っていること

やはり、日本とは違って異文化の世界で生活していることも何よりですが、新しくできた友達といろんなところへ出かけるのも楽しかったです。特に、日本では体験したことがないような川の上でのスケートや大きなカボチャのフェスティバル、クリスマスツリーカット、生のホッケーの観戦、さらには、普段の日常の中で髪が凍ることなど、カナダでした体験は

すべてが思い出です。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

私は、1月中旬に友達とアイススケートに行き、そこで転倒した際に左手首の骨折をしました。緊急手術を受け、約1か月間帰国する時までギプスをはめていましたが、その怪我の日から生活が一変しました。まず朝起きてバスに乗って学校で授業を受けて、という普段の生活がとても苦労しました。その当時は、何もしていなくても本当に痛くて、いくらホストファミリーが助けてくれるとは言え、やはり本当の家族ほど頼ることもできず、病院では自分の状態がうまく伝えられず、この時が一番つらかった時期だと思います。それでも何とか周囲の沢山の人の支えがあって乗り切ることができました。混雑したバスでは、絶対毎朝席を譲ってくださる人がおり、運転手は大丈夫かと気にしてくださり、カナダ人のやさしさを心から実感しました。カナダの文化だといって、ギプスにみんなから寄せ書きをしてもらいました。今思えば、大変だったけど誰も体験することのない良い思い出だし、今も感謝の気持ちで溢れています。

③ 文化、習慣などの違いで驚いたこと

一番驚いたことは、カナダ人の寒さに対する対策です。雪が降った次の日の朝には、除雪機で道がすぐに通れるようになっていました。個々の車は、バッテリーが上がらないように、充電するためのコンセントを車のボンネットから出せばなしで普段からぶら下げて走っています。家のドアや窓は二重に対策されていましたが、外側の扉の内側は凍っていました。大きいバス停では、ガラスで囲まれた待合スペースがあり、椅子の下からは暖房が出ていました。

Ⅲ. 留学志望者へのアドバイス

① 日本から持って行って特に役立ったもの

パソコンは学校の課題に利用しますし、同女へのマンスリーレポート等もパソコンを使っていたので、絶対に必要です。洗濯ネットやタオル、コンタクトレンズといったものはもちろんですが、ヒートテック等寒さに負けないためにも多めに持ってくることをお勧めします。日用品はカナダでも売っているので、洗顔フォーム等現地で代用できるものは、あまり持ってこなくてもよいと思います。日本のちょっとしたお菓子やお土産なんかは、別れ際や仲良くなった人にあげるとすごく喜ばれるので、荷物にならない程度で用意しておくのもあります。バッテリー充電器はあとあと必需品になります。

② 語学力の向上、留学の成果、留学前と後で変わったこと

Speaking と Reading、Listening が伸びたなと感じます。特に、Speaking は行く前は少しおどおどした感じで喋っていた気がしますが、カナダに滞在中は、自分の意思をはっきり話す人も多いため、とりあえず自信がなくても話せなくてもいいから何かしゃべろうとトライすることが大事だと気づきました。発言しようとして、どう話せばよいか分からなくて止まってしまっても、聞き手側は待ってくれるので落ち着いて自分の気持ちが伝えられる

ようになった気がします。Reading、Listening ですが、常に英語に触れる環境にいるため、意味が曖昧であったとしても聞き覚えのある、見たことのある単語やフレーズが増えたことが語彙力の向上につながったと思います。

③ これから留学を考えている方にアドバイス

留学を通して得られるものは沢山あります。長期間滞在するからこそわかるその国の生活や、そこで知り合った人たちとの思い出は、その時にしか経験できません。5か月という期間は、長いようで本当にあっという間です。英語力が上がるか、そこで何を学べるのかは、その間に自分が何をしたか、つまり全部自分次第だと思います。留学に行きたい理由は、人それぞれです。夢を成し遂げるためという人や、ただ単純に大学生活の中で新しいことをしたい、という人もいます。英語の勉強だけであれば、正直日本でもできますが、カナダで私と同じように、英語が第二言語の外国人と英語を通じて触れ合っていく中で、英語を学ぶ楽しさを改めて実感しました。飛行機の手配から現地での体調管理等、何から何まで自分でやることで責任感も生まれますし、留学先で自分より英語が流暢な日本人に出会って意識がさらに高まったり、カナダ（海外）という国の考え方一つとっても、日本とは全く違う世界で、視野も広がります。もし留学中に一つでも何か達成したいというものがあれば、英語力がそれほど伸びなかったとしても、留学をして悪かったことより、良かったことの方が大きいはずですよ。もし留学に少しでも興味があれば是非チャレンジしてみてください。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

まずは TOEIC で 700 点を超えること、そして英検準 1 級合格です。留学生として海外に行って、いろんな方に支えてもらい繋がるのがとても楽しかったのも、その経験と身に着けた英語力を活かし、今度は観光や他の面から、日本に来る外国人観光客との懸け橋になりたいです。

V. 写真



これは私のクラスの写真で、日本、中国、韓国、ルワンダ、カナダ人がいます。中には5か月間一緒に過ごした人が何人かおり、とても和気あいあいとした楽しいクラスでした。



カナダ人の友達におすすめのカフェに連れて行ってもらいました。とても大人っぽく、私と同じ年には見えません！この友達は、日本に興味があるようなので、今度は日本で再会できたら良いです。

M. H.（英語英文学科・2年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

高校生の時に短期留学をしたことはありましたが、長期留学をしたことはありませんでした。大学入学前より、長期留学することは私の夢でした。理由は、長期間海外に住んで、様々な人種の人に出会い、世界中に友達を作りたいからでした。また、私は極めてリスニング力が低かったため、授業中でもネイティブの先生のおっしゃることを聞き返すことが多く、それを克服したかったからです。

② 留学決定から出発までの準備期間

私はパスポートを持っていたので、そのことに関して時間を取られることはありませんでした。しかし、クレジットカードを持っていなかったため、新しく作るために銀行へ足を運びました。夏休み直前ということもあり、手元にクレジットカードが届くまで1ヶ月かかりました。持っていない人は早めの手続きをおすすめします。

③ 現地到着後

私は、「関西国際空港」→「バンクーバー」→「ウィニペグ」の経路でカナダへ行きました。30分ほど飛行機の遅れがありましたが、ホストファミリーが空港で待っていてくれました。空港からホームステイ先まではとても近く、車で15分ぐらいの距離でした。私は、月曜日から授業が開始でしたが、万一に備え土曜日に現地に到着するようにしました。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

マニトバ大学はとても広いので、建物の場所を覚えるのに時間がかかりました。また、テスト毎に教室が異なっていたので、テスト前日に教室の場所を確認することをおすすめします。University Center という建物は、施設がとても充実しており、フードコート、コンビニ、薬局、ブックストア、ジム、ATM などがあり魅力的です。ATM の使い方が分からず現地の生徒に尋ねると、優しく教えてくれました。

◆ 授業内容、課題、試験

留学前に日本で受けるプレイスメントテストで、クラス分けがおこなわれます。2ヶ月に一度行われる Final Test に合格すると、クラスレベルが上がっていきます。宿題は少ないですが、ほぼ毎回の授業で出されたので放課後必ず宿題をするようにしていました。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

木曜日の放課後に、Language Exchange がありました。これは、日本語と英語を30分ずつ交互に教え合いながら話すというものです。ここで出会った学生と連絡先を交換し、日本語と英語を交えながらやりとりをしていたので、スラングや略語などを学ぶことがで

きました。また、週末には語学学校主催の Activity があり、ウィニペグの有名な美術館、お祭りなどに無料で行くことができました。とてもおすすめです。

⑥ 現地での住まいについて

私は5か月間ホームステイでした。家はお城並みに広くて、ホストマザーの手料理はどれも美味しく快適に過ごすことができました。朝は自分で軽食をとり、お昼ご飯と夜ご飯は、ホストマザーが作ってくれました。室内は暖かく保たれており、靴を脱ぐ方針の家だったので、きれい好きの私にとってはストレスのかからない住まいでした。

⑦ 長期休暇の過ごし方

長期休暇はトロントへ1週間旅行しました。ウィニペグと比べると、とても都会で驚きました。ウィニペグにはバス以外の乗り物がないので、トロントで初めて地下鉄や電車に乗り、わくわくしました。電車の中では、楽器を演奏しお金を貰う人がおり、日本では見かけない光景だったので新鮮でした。最も感動した場所は、ナイアガラの滝です。運よく快晴だったので、滝に虹がかかっておりとても魅力的でした。滝は大きく、飛び込んだら吸い込まれそうなその迫力に感動しました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も印象に残っていること

留学を目指した理由にも書いたとおり、異なる人種の友達をたくさん作れたことです。私は携帯の設定上、現地でインストールすることが出来なかったのですが、WeChat という LINE のようなコミュニケーションアプリで、私の友達が中国からの留学生と連絡を取ってくれて一緒に遊びに行ったり、ご飯を食べに行ったりすることができ、とても良い思い出となりました。日本に帰国してからは、現地でできた友達が日本を訪れてくれて、京都を案内してご飯を食べに行きました。今でも連絡を取っており、このまま良き友情関係を保っていきたいです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

文化の違いによる誤解などです。コロンビアやサウジアラビアなど、いろいろな国から留学生がやってくるので、日本では失礼な態度も、違う国では失礼ではなかったり...と、様々です。私は、一時期この文化の違いに大変ストレスを感じました。留学する以上、日本での「当たり前」や「常識」は一度取り除くことも大切なのだと深く学びました。

また、語学学校では同志社女子大学の英語の授業のように、ネイティブの先生はゆっくりと話してくれません。ですので、リスニング力が高くない私にとって、初めは授業についていくことが大変でした。分からなかった点をその都度メモして、授業後は先生に質問攻めでした。しかし、2か月が経ちクラスが上がった頃から聞き返すことが少なくなってきました。一度で先生の言ったことが理解できたときはとても嬉しかったです。

③ 文化、習慣などの違いで驚いたこと

Tip 制度に慣れるのには時間がかかりました。Tip を出さなくても良いお店、出さないと店員さんの機嫌が明らかに悪くなるお店…と様々です。Folks にあるパンケーキ屋さんに行くときは必ず Tip を払うことをおすすめします！

Ⅲ. 留学志望者へのアドバイス

① 日本から持って行って特に役立ったもの

私は、雪の積もる寒い時期に留学したので、「貼るカイロ」は持って行って良かったと思いました。後は、パソコン・洗濯ネット（5つ）・ヘアアイロン・薬などです。

② 語学力の向上、留学の成果、留学前と後で変わったこと

私は、リスニング力が格段に上がったと思います。それは、留学後に受けた TOEIC の結果にも表れていました。また、留学後の大学での授業でも、先生の話しているスピードが少しゆっくり聞こえる上に、ほとんどの内容を1回で理解できるようになりました。本当に留学して良かったです！

③ これから留学を考えている方にアドバイス

今、この留学体験レポートを読んでいるあなたは、留学することに迷っているのだと思います。私は、自分の経験を踏まえた上で、留学することを強くおすすめします。英語力の向上はもちろん、様々な文化を持つ人と出会い、日本ではできないような体験をし、異なる価値観を必ず身につけることができます。また、世界に友達を作ることができます。大学生活の貴重な半年間を留学にあてることは、きっとあなたの成長に大きくつながると私は思います。これから留学を検討する人も、すでに留学が決まっいてこの留学体験レポートを読んでくれた人も、留学が有意義なものとなるように願っています！

Ⅳ. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

将来の目標は、現地でできた友達とこれからも国際交流を続け、英語を使い続けることです。せっかくできた友達なので、頻繁に連絡を取り合い、いつかその友達たちの国へ訪れてみたいです。近い目標としては、TOEIC を受けて自分の目標点を達成することです。

V. 写真



この写真は、帰国直前に友達と友達のホストファーザーがお見送りに来てくれた時の1枚です。最後の最後まで、荷物を持って運んでくれたり、朝早かったのにお見送りに来てくれて、とても嬉しかったです。



ホストファミリーと外食したときに撮った1枚です。レストランへ夜ご飯を食べに行きました。とても美味しかったです。